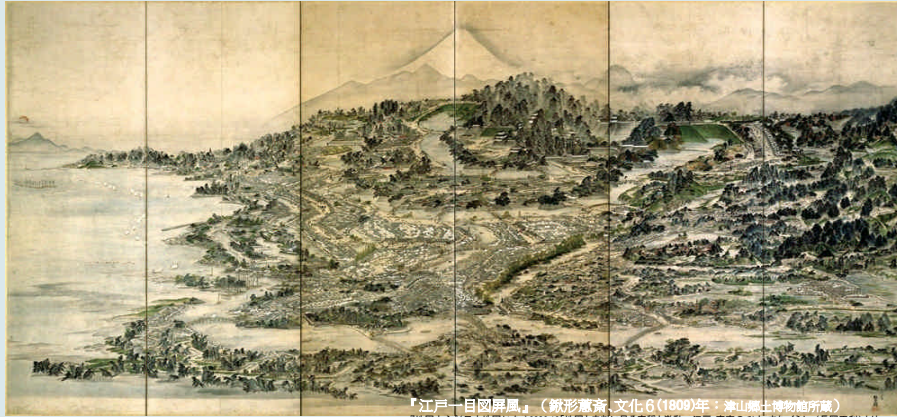


茗溪学園高等学校の皆様へ

お願い：この、スライドPDF版のご利用(再配布)について  
配布は、関係の先生方と、お話しをお聞きの生徒さんに限定してください。  
お話しそのものは限られた場での限定的なものであり、それ故に、広く公開  
するに際しての図版(以前に別件で利用許諾頂いたもの)の再利用などの手続きを  
省略しているゆえです。

## 古地図・歴史史料から見えてくる世界



「江戸一目図屏風」(新形斎画、文化8(1800)年、海山園土博物館所蔵)  
『地図中心』(日本地図センター)2009.12「地図と史料に見る変遷と激動—江戸・東京のひとまちづくり」(長岡正利より)

長岡正利(国土地理院客員研究員:(財)日本地図センター勤務)  
2012.12.19、国土地理院「地図と測量の科学館」リフォーシウムにて

### 今日のお話し(講義)の内容

- 前段として、日本における地図作成史—概説  
行基図の時代から近・現代の地図まで。
- 江戸時代～明治以降の地図と史料に見る土地の変遷。  
「江戸」から「東京」への変化と発展 — 簡単にご説明を  
土地の変遷は、その自然条件にも支配されている。度重なる災害履歴も自然条件に関係する。
- 地図と史料(『江戸名所図会』など)にみる江戸や近郊の姿、人々の生活  
そこに描かれたのどかな姿からは、「江戸時代が身分制度で縛られた世界」とは思えない等々。
- 若手の研究者としての将来像  
近年のポストドクター問題なども率直に説明。(研究者として生きるのは容易ではない。)
- なお、幕末期以降の古地図と史料(今日のお話で登場の『江戸名所図会』など)については、  
10数点を持参して展示、実物を見てもらいます。(ホンモノの風合いなどをお楽しみ下さい。)




日本における地図作成史 (概説) : 「流宣図」よりも情報量は少ないが、日本の概形は整ってくる。



流宣図(寛文11年刊)は、江戸時代中期に刊行された。この図は、流宣(1700)の「大日本全図」を改訂して、流宣の「大日本全図」よりも情報量は少ないが、日本の概形は整ってくる。流宣の「大日本全図」は、流宣の「大日本全図」よりも情報量は少ないが、日本の概形は整ってくる。

日本における地図作成史 (概説) : 江戸時代後期に大いに流布した「赤水(日本)図」  
日本列島の概形はかなり正しくなり、緯度経度の概念が導入される。



赤水(日本)図(天明5年刊)は、江戸時代後期に大いに流布した。この図は、日本列島の概形はかなり正しくなり、緯度経度の概念が導入される。赤水(日本)図(天明5年刊)は、江戸時代後期に大いに流布した。この図は、日本列島の概形はかなり正しくなり、緯度経度の概念が導入される。

日本における地図作成史 (概説) : 浮世絵の流れをくむ、装飾的な日本図。



大日本全図一覽(天明5年刊)は、江戸時代後期に刊行された。この図は、浮世絵の流れをくむ、装飾的な日本図。大日本全図一覽(天明5年刊)は、江戸時代後期に刊行された。この図は、浮世絵の流れをくむ、装飾的な日本図。

日本における地図作成史 (概説) : 伊能忠敬による全国測量の初期の成果



沿海地圖(天明5年刊)は、伊能忠敬による全国測量の初期の成果。沿海地圖(天明5年刊)は、伊能忠敬による全国測量の初期の成果。

日本における地図作成史 (概説) : 「伊能図」、その最終成果の1つ。



伊能小図(西日本・エゾ地)(天明5年刊)は、伊能忠敬による全国測量の最終成果の1つ。伊能小図(西日本・エゾ地)(天明5年刊)は、伊能忠敬による全国測量の最終成果の1つ。

日本における地図作成史 (概説) : 明治前期の「迅速測圖」原図



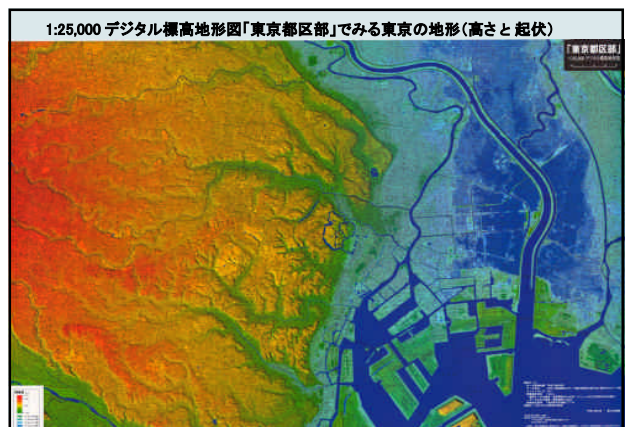
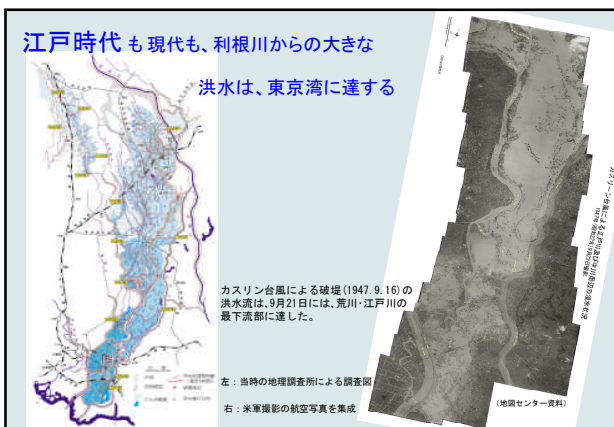
迅速測圖(明治13~19年)は、明治前期の「迅速測圖」原図。迅速測圖(明治13~19年)は、明治前期の「迅速測圖」原図。

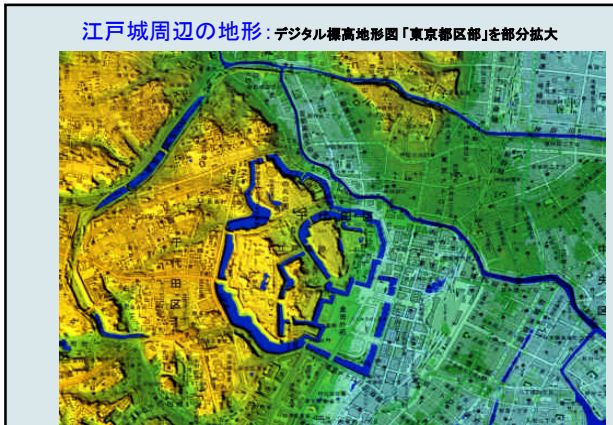
ここに、後に、東京ディズニーランドが立地



続いては、  
江戸時代～明治以降の地図と史料に見る土地の変遷  
「江戸」から「東京」への変化と発展

―― 土地の変遷は、その自然条件にも支配されている。  
たび重なる災害履歴も、自然条件に関係する。





まずは、江戸時代前期のお話しを  
**家康の入府前後の江戸小史**

- 1589(天正17)年 家康は秀吉の命で、駿河などの5ヶ国から、北条氏の旧領である武蔵などの6ヶ国に移封(翌年、江戸入府)
- 1603(慶長8)年 家康が征夷大将軍に任ぜられる(徳川幕府による江戸開府)
- 1604(慶長9)年 城の大改造に着手し、1607年に大天守閣が完成
- 1605(慶長10)年 家康が将軍職を辞し、嫡男・秀忠へ将軍職が宣下される
- 1607(慶長12)年 家康は駿府城に移り、「駿府の大御所」として実権を掌握し続ける
- 1614(慶長19)年 大坂冬ノ陣。翌年の夏ノ陣で大坂城は落城し、豊臣氏は滅亡
- 1616(元和2)年 **家康は駿府城で薨去**
- 1623(元和9)年 家光が将軍職に
- 1651(慶安4)年 家綱が将軍職に
- 1654(承応3)年 利根川東遷が一応の完成
- 同年 玉川上水から江戸市中への通水開始(水路開削は1653年から)
- 1658(明暦3)年 **明暦大火(漆油火事)**による江戸の壊滅。その後江戸の再開発
- 17世紀の末 元禄時代の経済急成長により、都市は繁栄。江戸は百万都市に

江戸は、「鄙びた寒村」だったのか？！

「神君」としての「家康神話」における**虚構**ではないかとの説も幾つか？！  
(鈴木理生『江戸と江戸城』1975、岡野友彦『家康はなぜ江戸を選んだか』1999、ほか)

中世の江戸(太田道灌とそれ以前)は、かなりの都市的発展を遂げていた。  
品川湊は東西交易の拠点となっていたほか、日比谷入り江も湊の機能を持っていた。

在原業平の時代から、東国の隅田の渡しは知られており、多くの人が行き交っていた。  
観世十郎元雅(室町時代)は隅田の渡しの母子の悲劇を、謡曲「隅田川」とした。

江戸の立地条件

荒川(隅田川)と利根川(江戸川)の下流の低湿地(三角州)と西側の台地・段丘にまたがって立地

江戸城は、日比谷入り江を望む台地のへりに築かれ、主に西部に武家が、東に町人が住むこととなった。

河川沿い低地・地盤不良のために、**自然災害が多く**(洪水・地震)、  
人口密集と木造家屋・冬の季節風のために、**大火が頻発した。**

江戸城は、  
台地の先端に立地し  
周辺には大名・武家屋敷

町屋は東(下町)の低地に

青枠は、数ページ後のスライドの範囲  
**赤は江戸城** 下にその図を小さく紹介

江戸城は、日比谷入り江を望む台地のへりに立地した

「わがいはは松原つづき海近く富士の高嶺をのきばにぞみる」  
寛正5年(1464)、遠浦が上洛し、将軍、足利義政に拝謁したとき、後土御門天皇の下間に、江戸城、静勝軒からの眺めを詠んだ詠んだもの。

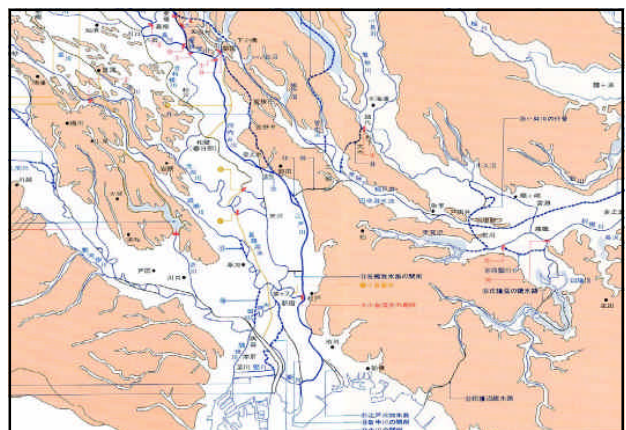
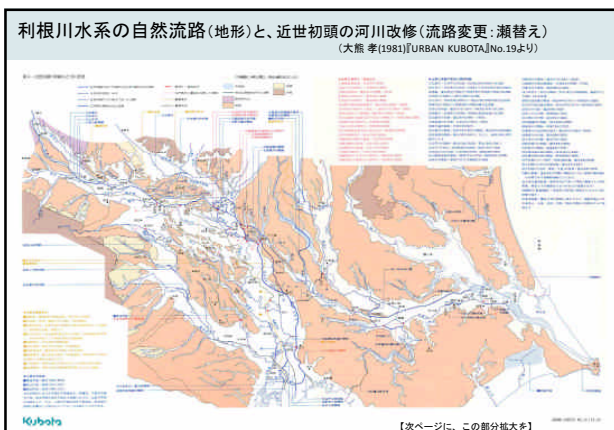
後の江戸中期とも、  
「日比谷入り江」などは埋め立てられて市街地となっていたものの、**江戸川あたりから先は、一面の低湿地が續いていた。**

右は、歌川広重(1797~1858)による「江戸名所百景/深川洲崎十万坪」(部分掲載)

江戸川河口につながる低地帯と、遠景は袋井山。



これらの例からも、利根川が江戸湾に注いでいれば、  
大規模な洪水が常襲していたほか、  
常に滞水して、交通の障害・新田開発などの  
阻害となっていたと思われる  
そのために、江戸に入府した家康は、  
城と城下の整備に併行して、  
利根川の流路変更(瀬替え)に着手した。→ 利根川東遷



### 利根川東遷の進捗課程

① ② ③ ④ ⑤

(『地図中心』No.384より)

### 迅速測図(原図)に見る 利根川の流路変更地点 江戸川はここから始まる

迅速測図：  
明治13～18年にかけて、  
関東平野の全域と房総・  
三浦半島を、2万分1で  
測図(地図化)した、初の  
広域測量。  
その原図 921枚が現存。

### 前ページ図の南:江戸川

### 利根川の流路変更地点の現状 (5万図「水海道」平成7年修正)

### 利根川東遷の後の時代の古地図

明治以前の関東平野には、  
至る所に湖沼や湿地

(『関東水流図』(版権、刊年不明)特寫堂文庫所蔵)

## 江戸城と、初期の都市基盤作り

### 城の築造

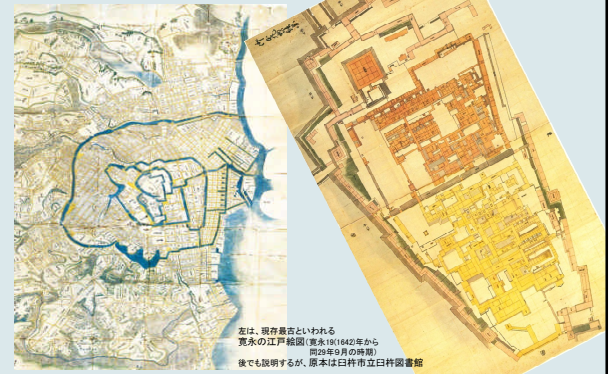
### 町割り(都市計画)

### 水運(物資流通)

### 上水道

神田上水、溜池(貯水池)など  
後に、玉川上水を

## 江戸城の築造



## 江戸城は、日比谷入り江を望む台地のへりに立地した

「わがいはは松原つぎ海近く富士の高嶺をのきばにぞみる」

寛正5(1484)年、太田道灌が上洛し、將軍・足利義政に拝謁した際、後土御門天皇の下間に、江戸城・静勝軒からの眺めを詠んだ詠んだもの。

### 後の江戸中期となっても、

日比谷入り江などは埋め立てられ市街地となっていたものの、江戸川あたりから先は、一面の低湿地が続いていた。

右は、歌川広重(1797~1858)による「江戸名所百景」(深川洲崎十萬坪)(部分複製)

江戸川河口につながる低地帯と、遠景は筑波山。



## 土地の造成と水運の基礎

江戸の中心部とその周辺は、運河網を基本とし、河岸(かし)が整備されて、蔵(流通倉庫)が建てられた。東北地方からの物資は、房総半島(外洋)を避け、利根川を遊って江戸川を経てもたらされた。

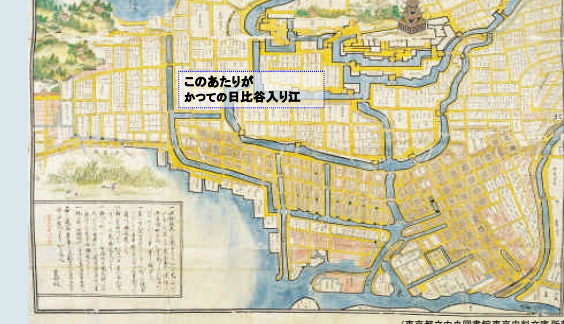
### 数ページ前で紹介の、江戸初期骨ワクは、右側の地図



## 初期の江戸絵図:『武州豊嶋郡江戸庄図』

(後の写図:原は寛永9(1632)年頃)

### 上水池としての「溜池」



## 江戸京都絵図屏風に見る 初期の江戸

城を中心に、大名屋敷や町屋が連なる。左に増上寺、右端が上野不忍池。下端の隅田川には、まだ両国橋(明暦大火後に)などは無い。



### 江戸への物資搬入を支えた運河網：日本橋界隈の活況

川を行き交う、運送や行楽の船。河岸には蔵が並ぶ。『江戸名所図会』より

### 日本橋・・・

そのあたりを、当時と明治前期・現代の地図で見れば

地図は順に、  
『分間江戸大絵図』  
金丸彦五郎図・須原屋茂兵衛版、1859年  
『5千分1東京図 測量原図』  
参謀本部測量局、1894年、国土地理院所蔵  
大礼記念『東京中心部・1万分1地形図』  
国土地理院、1990年

これらの比較によって、日本橋界隈での道路網は江戸時代と変わらないこと、江戸絵図はかなり正確なものであることが判る

### 江戸への物資搬入を支えた運河(堀)：その運河網への入り口では

『江戸名所図会』より、その4ページを貼合せ  
上図左下の湊稲荷社(中央区湊に現存の鑑地洲稲荷神社)で、左から隅田川に合流する八丁堀と越前堀は日本橋川へとつながることから、この水域は、江戸市中への水運物流の一大拠点となっていた。  
諸国からの運船はここにもやい、積み荷は小型の舟に移されて堀を漕った。湊稲荷地先と佃島の間にはひしめく運船と、荷を満載して堀を行く舟の賑わい。  
歌川(安斎)広重の最晩年の作『名所江戸百景』の「永代橋佃島」。隅田川で最下流にかかる永代橋の橋下を過ぎる舟から見た佃島の海。中天には上弦の月が芽え、星空を透かせば暗い海面には石川島と佃島の影。このあたりから広げゆく海面には、諸国からの運船が夜の闇に沈み、左の橋脚の向こうには、白魚とりのほのかな漁火も。

### 日本橋 界隈の、その後

The Nishi Bridge (Shinjuku) Tokyo 橋 全 景  
関東大震災(大正12年9月)の前の状況(当時の絵葉書)  
重厚な瓦葺きの商家は、震災で潰滅・焼失した

現在は、ご覧のとおり日本橋

### 絵はがきに見る 日本橋の変遷

重厚な瓦葺きの商家は、震災で潰滅・焼失した

The Nishi Bridge (Shinjuku) Tokyo 橋 全 景  
関東大震災(大正12年9月)の前の状況(当時の絵葉書)

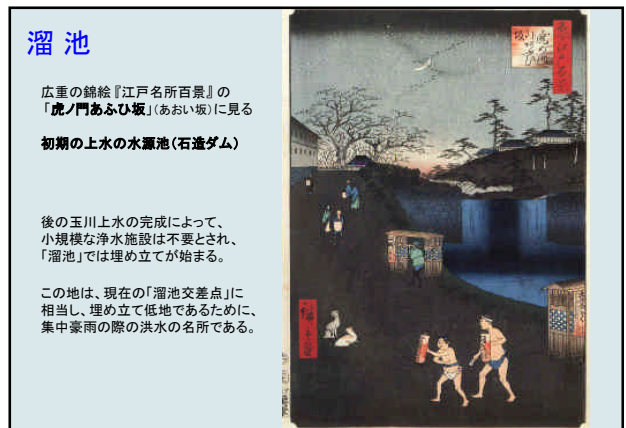
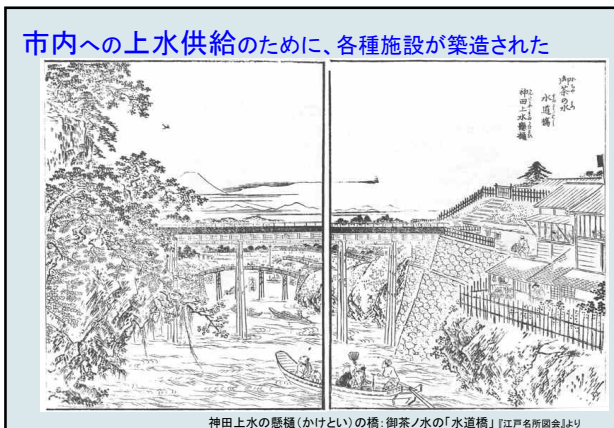
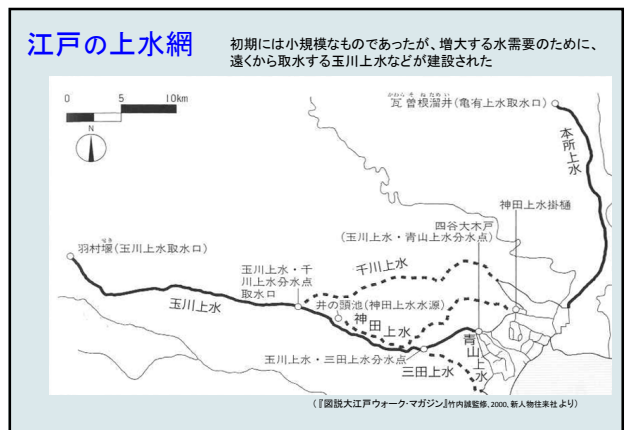
震災から復興した日本橋がかわいい

### ついでに、絵はがきに見る 東京駅近くの変遷

建設当初のドーム屋根、電車も走る駅前には未舗装。(当時の絵葉書)

高度経済成長の前。まだ空は広がった。

TOKYO STATION



### 明暦大火 (明暦3(1658)年: 振袖火事) による江戸の壊滅

正月18日午後、本妙寺から出火  
翌19日未明に日本橋あたりまでを  
焼き尽くして鎮火

一旦鎮火の19日朝、小石川でも出火  
江戸城内のほとんどと 武家屋敷街、  
江戸の中央部を焼く

19日の夕方に、新たに麹町で出火、  
外桜田から芝までを焼き尽くして、  
20日朝に鎮火

市ヶ谷見附 外 本丸 西の丸 日本橋 八丁堀 教育館橋 江戸湾  
四谷見附 山王社 増上寺

明暦の大火の焼失地域

〔図説大江戸ウォークマン〕竹内誠監修、2000、新人物往來社より

### 大火を契機に 幕府は、過密化していた江戸の改造に着手

【以下、各一例】

**移転した(させられた)もの、**  
大名屋敷を城外へ、一部の寺院の集中化(上野の寺町)、吉原遊郭、

**大火を契機に、またはその後に新たに設置されたもの**  
広小路や馬場: 火除地、高札場、芝居の小屋掛け

**そのままのもの、**  
江戸開府以前から今も同じ浅草寺

### 江戸時代を中心とした 江戸の小史

このあたりからは、お話しは江戸時代後半に

- 1603(慶長8)年 徳川家康が征夷大将軍に任ぜられる(徳川幕府による江戸開府)
- 1654(承応3)年 利根川東運が一応の完成。玉川上水から江戸市中への温水開始
- 1658(明暦3)年 明暦大火(振袖火事)による江戸の壊滅。その後江戸の再開発
- 17世紀の末 元禄時代の経済急成長により、都市は繁栄。江戸は百万都市に
- 1702(元禄15)年 赤穂浪士の討入り、翌年に浪士切腹
- 1707(宝永4)年 宝永の大地震と、しばらく後の富士山噴火
- 1783(天明3)年 浅間山噴火、大飢饉
- 1787(天明7)年 各地で打壊し騒動、1790(寛政2)年に石川島人足寄場・得業興産
- 1804(文化元年)年 ロシア使節シゲノフが長崎に来航
- 1821(文化4)年 伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」が完成し、幕府に上呈
- 19世紀前半 文化文政期の繁栄
- 1838(天保4)年 4年間にわたる天保の大飢饉始まる
- 1846(弘化3)年 アメリカ艦隊が浦賀に、その後各地に異国船が。
- 1853(嘉永6)年 ペリー来航に、翌1854(安政元)年に日米和親条約締結
- 1855(安政2)年 安政の大地震(江戸の直下型地震)で、死者1万人
- 1858(安政5)年 日米修好通商条約、続いて、蘭館焚失とも 翌年に、神奈川長崎開港を開港  
同年 安政の大騒動始まる
- 1860(万延元)年 桜田門外の変
- 1863(文久3)年 慶応戦争(前年に生麦事件)翌年4国通商条約が下関地蔵長州藩降伏
- 1867(慶応3)年 大政奉還 翌年に戊辰戦争など

### 江戸開府当初の都市基盤整備の後にも 引き続き、大規模事業

**江戸の膨張と、都市基盤の整備(まちづくり)**  
江戸の土地利用の実態: 町屋はごく一部、広大な武家屋敷  
朱引き地、隅田川以東への都市拡張  
**治水事業と、それに伴う新田開発・水運**  
飯沼川、鬼怒川河口の付け替え、ほか  
**上水道の完備**  
玉川上水と地形  
**防災対策(というより事後の方策)**  
瓦版で知る被害と、お救い小屋など

### 江戸市街の拡大

江戸開府後の半世紀で、  
幕末頃と同じくらいの地域に、→  
市街が拡大した。

〔歩いてみよう東京 1 〕東洋館出版No.139 五百沢智也、1988より

### 明暦大火後、 改変されつつある 江戸市街

元禄2(1689)年の  
「江戸図鑑綱目」

明暦3(1657)年大火での  
死者が多かったこともあって、  
両国橋の架橋  
併せて、その東への  
市街地の拡大

〔江戸図鑑綱目〕元禄2(1689)年 大塚コレクション「江戸東海道」再現、1977、平凡社

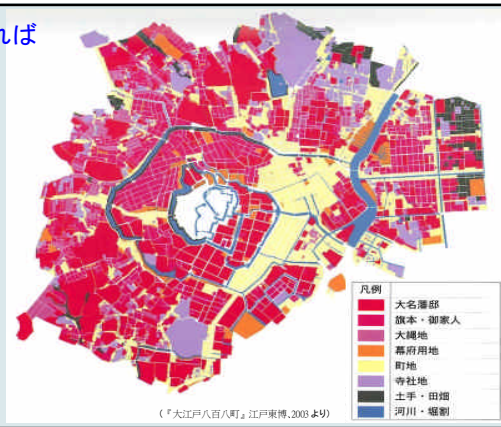
### 江戸市街の実態

江戸の土地利用は、  
**広大な武家屋敷**(図の白色部)に  
対して、**ごく一部の町屋**(同、灰色部)



(『大江戸八百八町』江戸東博, 2008より)

### 詳しく見れば



(『大江戸八百八町』江戸東博, 2008より)

### 江戸中期(17世紀後半) から、隅田川の 東へ市街地が拡大



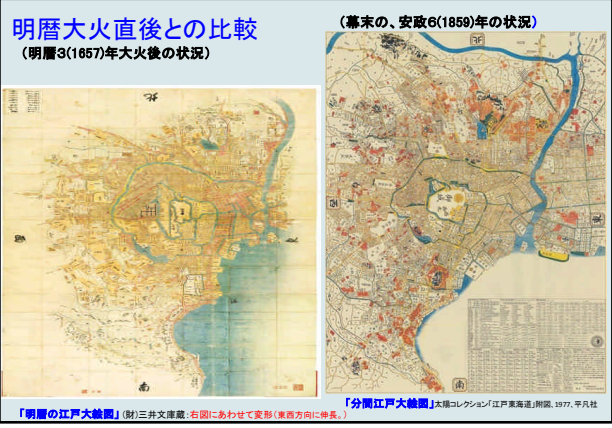
【分属江戸大絵圖】大塚コレクション「江戸東海道」附図, 1977, 平凡社

### 前の図の部分拡大



### 明暦大火直後との比較 (明暦3(1657)年大火後の状況)

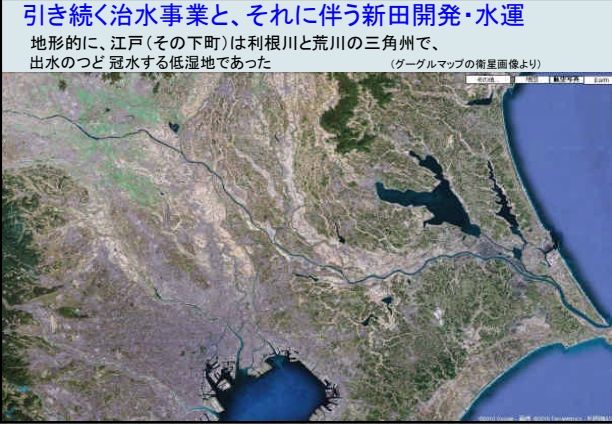
(幕末の、安政6(1859)年の状況)

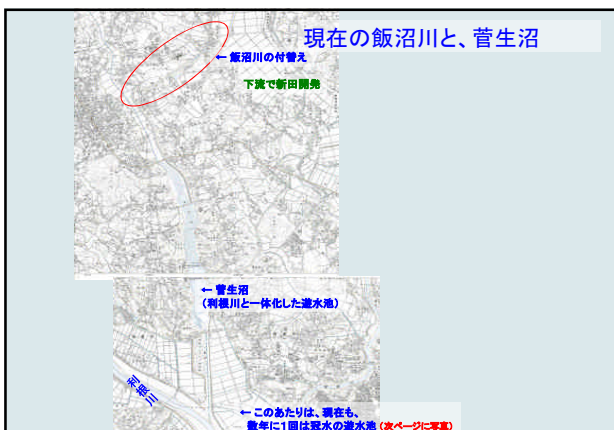
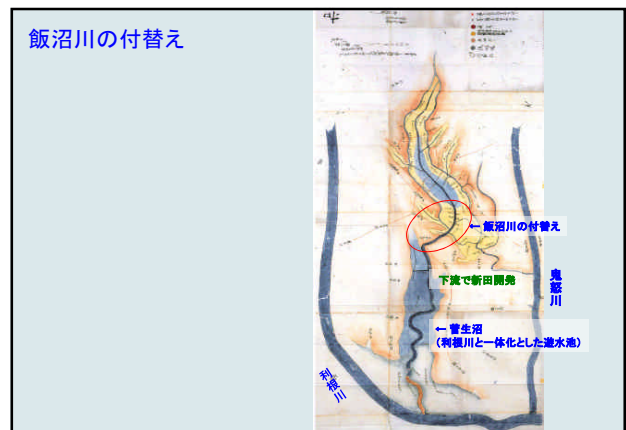
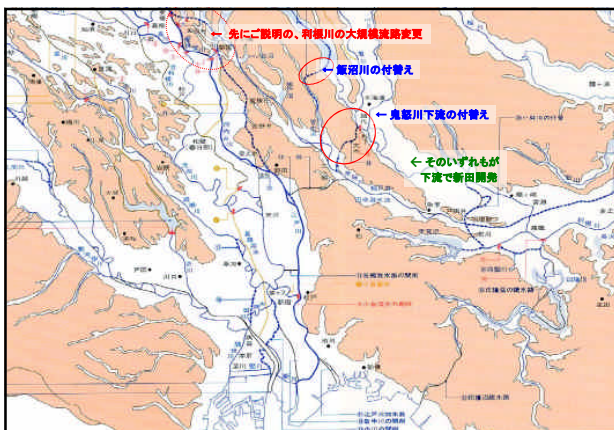
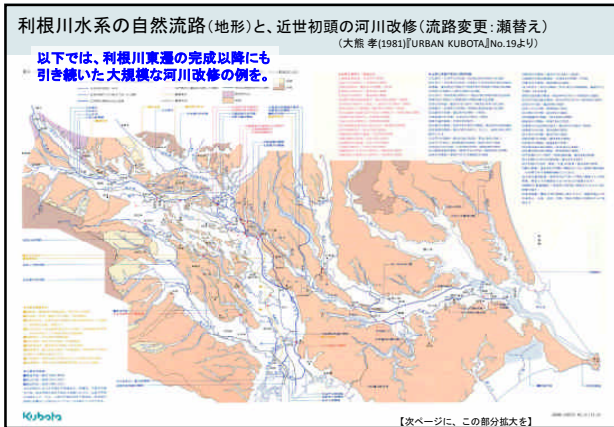


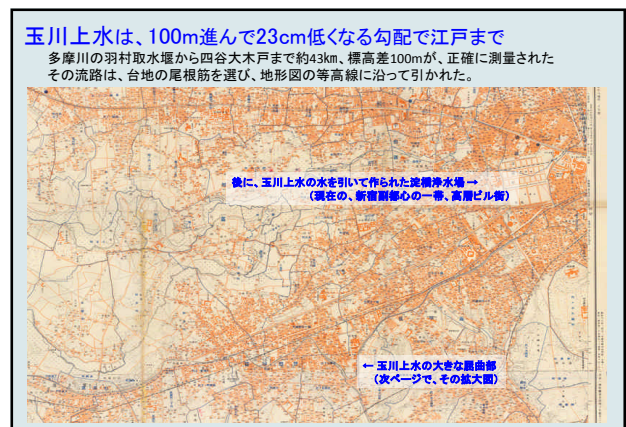
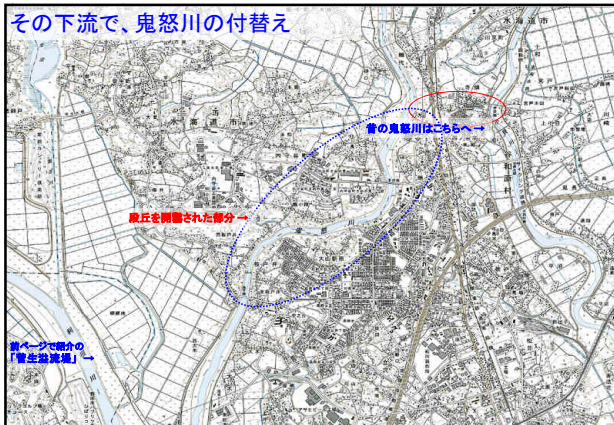
【明暦の江戸大絵圖】(財)三井文庫蔵, 右図にあわせて変形(東西方向に伸長). 【分属江戸大絵圖】大塚コレクション「江戸東海道」附図, 1977, 平凡社

### 引き続き治水事業と、それに伴う新田開発・水運

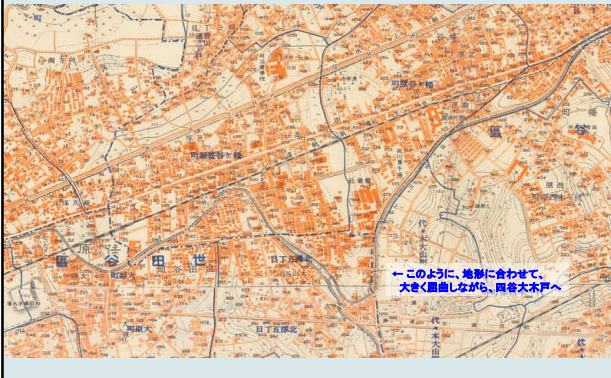
地形的に、江戸(その下町)は利根川と荒川の三角州で、  
出水のつど冠水する低湿地であった  
(Googleマップの衛星画像より)







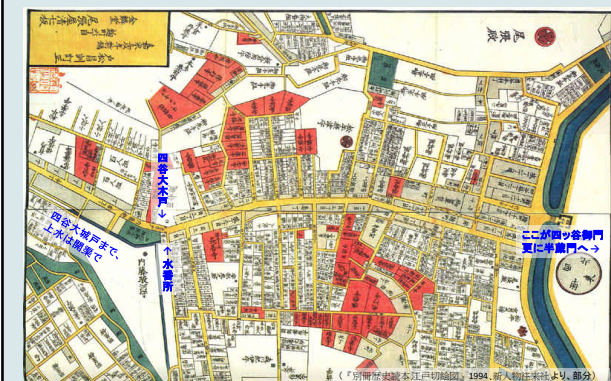
地形に沿う 玉川上水の水路



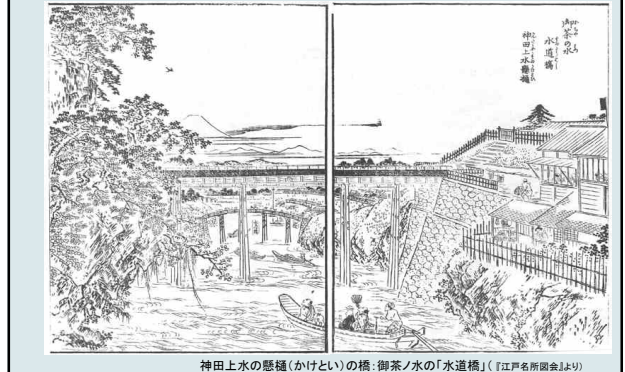
玉川上水: 内藤新宿のあたりから、四谷大木戸へ



四谷大木戸まで開渠、それ以降は暗渠配水



市内への上水供給のために、各種施設が築造された



江戸の防災対策(というより事後の救済)の例

瓦版で知る被害状況と、お救い小屋の位置など



頃ハ弘化三年正月十五日辰八ツときより本郷丸山辺より出火 折しも西北の風はげしく本郷遠北より加賀様御門前を  
東は湯島聖堂明神下佐久間丁辺を西は... 右下に、「町會所 御救小屋」として、3ヶ所が。

当時は、もっぱら破壊消火

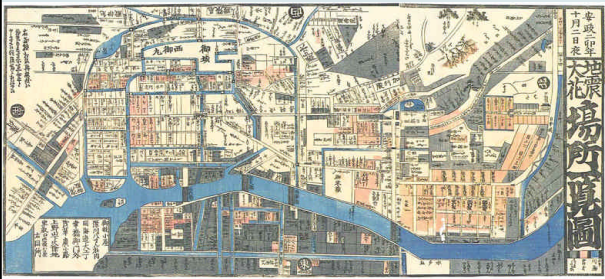
... 様々の纏(まとい)が火勢に向かってはいるが



『目黒行人坂絵巻』(部分):『かわら版 江戸の火災』編者監修、1995、平凡社より

上図は、江戸市内のかなりを焼失した  
明和9(1772)年2月29日の「行人坂火事」の様子

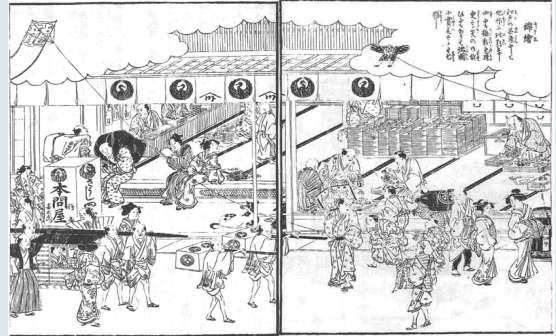
お救い小屋は、  
この火事(1855年:安政大地震に伴う)の際も、同様に



↑ 御救小屋位置の記載

話変わって、江戸や京・大坂における出版の隆盛

草紙(版本)、錦絵、絵図(地図) その店先の賑わい



錦絵「江戸の名産にして他邦に比類なし。なかにも極彩色ことさら高貴の御版びにもなりて、諸國に真美することつとも移し。」

絵図(地図)や図絵など、いろいろ



↑ 今日のお話している紹介の『江戸名所図編』

著名な屏風絵にも、程なくして廉価な複製図が

右は、冒頭で紹介の『江戸一目図屏風』

懐中用の折り絵図に仕立てられて



天保癸巳(天保3(1833)年間11月、昌平橋下で之を求めたとの、朱書

素晴らしい錦絵の数かず: 安藤(歌川)廣重の「江戸名所百景」より



喜多川歌麿の「伊勢物語 武蔵野」

一見、のどかな中秋の月見風景だが、『伊勢物語』に題をとったもの



清純・夢見るような少女を描いた鈴木春信だが・・・



清楚な絵の春信だが、時には危うい視線の・・・



歌麿や廣重、春信など、錦絵の作者は、ふつうに春画を



(この右側部分は複製)

(『江戸の浮世絵師』林美一、河出文庫より、鈴木春信「風流艶色真似及もん」続編)

春画、普通はこのような冊子体などで



(下の2図は、部分掲出)





### これより、お話しの後半へ

- 前段として、日本における地図作成史一概説  
行基図の時代から近・現代の地図まで。
- 江戸時代～明治以降の地図と史料に見る土地の変遷。  
「江戸」から「東京」への変化と発展  
土地の変遷は、その自然条件にも支配されている。度重なる災害履歴も自然条件に関係する。  
以上まで、お話し済み。 つづいては、
- 地図と史料(『江戸名所図会』など)にみる江戸や近郊の姿、人々の生活  
そこに描かれたのどかな姿からは、「江戸時代が身分制度で縛られた世界」とは思えない等々。
- 若手の研究者としての将来像  
近年のポストドクター問題なども率直に説明。(研究者として生きるのは容易ではない。)
- なお、**幕末期以降の古地図と史料**(今日のお話で登場の『江戸名所図会』など)については、10の観点を挙げて展示、実物を見てもらいます。(ホンモノの風台いなどをお楽しみ下さい。)

### 江戸や近郊の姿と人々の生活

『江戸名所図屏風』や『江戸一目図屏風』(歙形蕙斎、文化6(1809))と『江戸名所図会』、各種の錦絵などにみる

#### 江戸の繁栄と人々の生活・賑わい

繁栄の中での人々の生活・賑わい/時には、災害・地方での飢饉

繁栄 : 魚河岸、駿河町越後屋、

人々の楽しみ :

お祭り、芝居、食、相撲、新吉原、出版(本と錦絵)

四季折々の楽しみ—花見、月、紅葉、雪、等々、

物見遊山(参詣、登拝、旅)

### 江戸の繁栄と人々の生活・賑わい

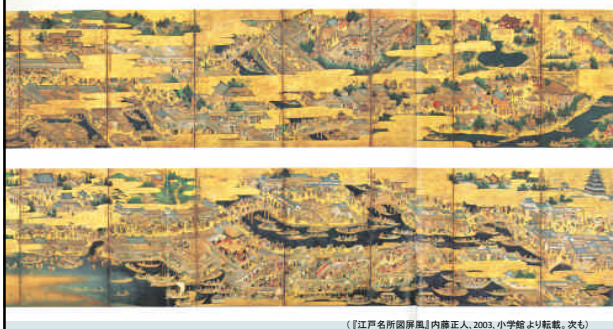
—『江戸一目図屏風』(歙形蕙斎、文化6(1809)年)などにみる



作者は、美作津山藩の江戸詰めお抱え絵師。開府から200年後の江戸のすがたを描いたもので、遠く富士山を望む江戸城の辺り一帯はうっそうとした緑で、お城の手前には繁華な日本橋界隈から、程なく隅田川あたりの農村地帯へとつついている。当時の江戸は人口百万人の世界屈指の大都市となっていたが、描かれたように緑は豊かで、近郊には水田などの広がる素晴らしい緑の都市だった

### 初期の江戸の賑わい

『江戸名所図屏風』(出光美術館蔵)に描かれた、江戸の賑わい



(『江戸名所図屏風』内藤正人、2003、小学館より転載。次も)

### 江戸城天守と城下の賑わい





江戸の繁華街の(旧)吉原の賑わい

江戸の後半: 人々の日常を描いた何枚かを『江戸名所図会』に見る



『火除地』(防火帯)の機能をもつ馬場(武士の馬の調教場)が各所に作られ、高札場(官の掲示板)や芝居の小  
「江戸名所図会」より「博習町馬場」  
若目したいのは、右からさしかかる大名行列に対して、土下屋で迎えるのは  
武士階級のみで、身分階級が違えば、無礼を働かない限りは、まったく音段のままであった。

前ページの図 - さしかかる大名行列に対して土下屋で迎えるのは武士階級のみで、身分階級が違えば、音段のま  
身分階級のことにつき  
補足ご説明を

仮にこれが産物を描いたものであれば、作者・版元・関係者は、厳しい咎を受ける。  
しかし、この絵が載った『江戸名所図会』は好評を博して版を重ね、類似の「名所図会」が各地で多く作られた。  
風刺などで咎を受けた例 / 左: 美一編 (1692-1724) 『朝妻舟図』 右: 喜多川歌麿 (1753-1806) 『太閤五妻洛東遊覧之図』

結語湖群に浮かべた舟で客を待つ、  
物乞い的な白拍子を描く。

2ヶ月の入牢(理由不詳)  
時の権力者である柳沢吉保が、出世す  
る過程で、家臣の権威者との間に  
差し出したことを、一姫が風刺的に仕立  
てた?  
吉原の城を遊覧に、朝吉を客に見立て  
たとするとも?

獄にも、八丈島に流島(鳥籠し)  
公式には、町人の分限で取り扱った(武  
士には修目的として禁錮されていた)  
ことが、「志願書の令」違反と  
されたもの。  
隠かにある。

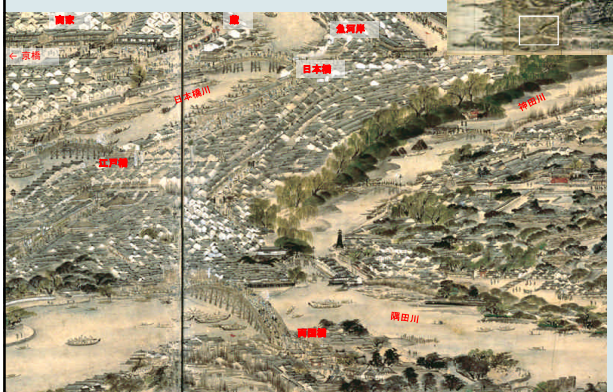
発禁と手鎖50日(両手を鎖で縛る)  
秀吉の「醍醐花見」(秀吉を乗客で)を描いて、幕府は、出版や芝  
居「巻」で「近世実在の人物を擁護しないこと」を反した。も  
加えて、北政所や淀殿のほか側室に開かれた花見酒にふける秀吉  
の姿が、当時の將軍・徳川家斉(妻妾40人に50人以上の子をもうけ  
る)を諷刺したものであるとも  
指を刺さな。やつらた取巻を見た版元たちは、「歌麿の命は長く  
ない、今のうちに描いて貰おう」と仕事が殺された。しかし、歌麿は意  
歌を失い、鎖には強りが無くマンネリ化。以前の緊張感も失われてい  
た。それらの過労が重なって年後に逝去。

すんでのところまで咎を避け得た例 - 歌川(一勇斎)国芳 (1798-1861) 『源頼光公館土蜘蛛妖怪図』



源頼光による土蜘蛛退治を描くが、その妖怪に苦しめられる頼光・実は將軍家腹は、情眼をむさぼる。主君の危  
機にツツボを向く家田は、天保改革の水野忠邦(老中首座)。ほか、着衣の家紋などから、それぞれが幕閣に比定  
される。間に跋扈する鶴巻頼朝は、改革の被害者たち。破れ提灯に「富」は、禁止された富くじの怨念。「歯なし」の  
ろくろ首は噺(寄席)禁止を恨んだもの、などなど。江戸の人々は、為政者に対する風刺の謎を解いては溜飲を下  
げた。(藤川整斎(天保14(1843)『天保雜記』に図解)  
このきわどい風刺画の余りの好評におのいた版元・伊勢屋利兵衛は、絵の回収と版木削割をなし、  
恭順の意を表したことから、お咎めはなし。

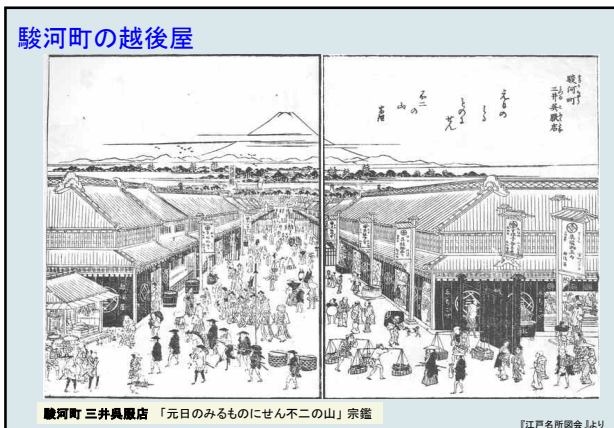
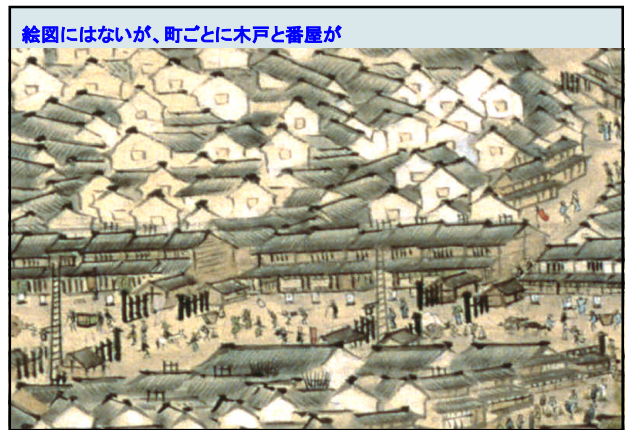
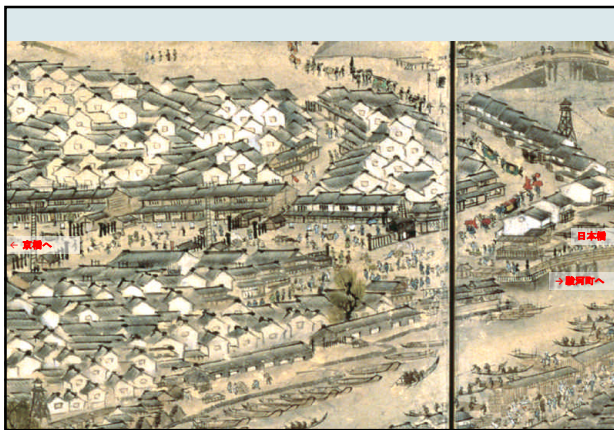
さて、まず 日本橋界隈の賑わいを



日本橋は、旅への出発点でもあった



橋の右手詰めにあった魚河岸からの魚を運ぶ人で賑わう、日の出前のひととき、  
朝立ちの大名行列が橋にさしかかる。



**本当に富士山は見たのか？！ 地表からでも、通りの奥に見えた。**

東大・清水英範先生によれば

『再現 江戸の景観』清水・布施, 2009, 鹿島出版会 によ

【図5-18】駿府町からの富士山の眺望（図5-20）。広重や左衛門が描いた通り、通りのほぼ中央に富士山の全景が見れた。

【図5-19】駿府町上空から富士山方向の景観図（清水2011）。駿府町の方角は江戸橋の最南端を指す。そこには、橋や御膳はなかった。

**日本橋の先、もと吉原の大門通り「鐘ひとつ売れぬ日もなし・・・」**

**大門通**「昔この地に吉原町ありし頃の大門通りなりしにより、かく名づく。いまは銅物屋・馬具師多く住めり。 **鐘ひとつ売れぬ日もなし江戸の善其角**」

**市外の上空より、遙かに江戸湾を望む**

**「江戸東南の市街(いちまち)より内海(うちうみ)を望む」**

**高輪海辺での、「二十六夜待」の賑わい**

この7月26日の月を見れば、幸せが訪れるとして、海辺やその料理屋は深夜の月の出まで大賑わい。この日は、月光の中に阿弥陀三尊が現出するという。

『江戸名所図会』より

**前ページ『江戸名所図会』高輪海辺(下にその部文図)のあたり、東海道を行く大名行列**

歌川貞秀「東海道高輪風景」文久2(1862)年  
『横浜浮世絵と室積ふ絵師立寄亭定秀』1997, 神奈川県立博 より

右は、その高輪から少し離れた品川宿の旅館(妓楼)での宴席の後。沖に碇泊の廻船の帆柱が影絵のように望まれ名月の面には雁の列が。 広重『名所江戸百景』『月乃唄』

**両国橋での花火 - 玉屋と鍵屋が競う**

「この人数 舟なればこそ涼みかな」其角

『江戸名所図会』より

日本橋の先、もと吉原の大門通り「鐘ひとつ売れぬ日もなし・・・」

大門通 「昔この地に吉原町ありし頃の大門通りなりしにより、かく名づく。いまは饅物屋・馬具師多く住めり。 鐘ひとつ売れぬ日もなし江戸の事 其角」

『江戸名所図会』より

日本橋の先、「もと吉原」の「大門通り」・・・  
そのあたりを、当時と明治前期・現代の地図で見れば

地図は 順に、  
『分間江戸大絵図』  
金丸彦五郎図・須原屋茂兵衛版、1859年  
『5千分1東京図 測量原図』  
参謀本部測量局、1884年、国土地理院所蔵  
大札記念『東京中心部・1万分1地形図』  
国土地理院、1990年

これらの比較によって、この一帯での道路網は江戸時代と変わらないこと、江戸絵図はかなり正確なものであることが判る

佃島と、その先の江戸湾

佃島：「名月やここ住吉の佃島 其角」

『江戸名所図会』より

佃島・・・  
そのあたりを、当時と明治前期・現代の地図で見れば・・・  
(地図は3ページ前と同じ種類の。)

佃島の今

『江戸名所図会』の「佃島白魚漁」と今に続く佃煮屋さん

当初からの住吉神社と水路(今は舟田溜り)、昔から同じ町並。遺業は石川島に作られた「大川端リバーシティ21」の高層マンション

このページは、「地図中心」日本地図センター2011年11月東京湾から先島まで3-9-10号頁の「この街長崎のついで」掲載資料より

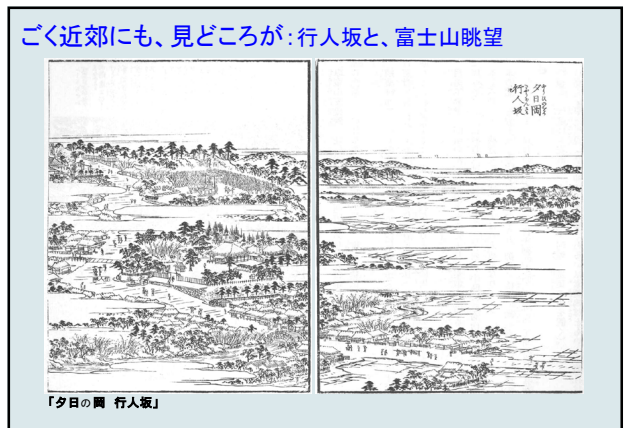
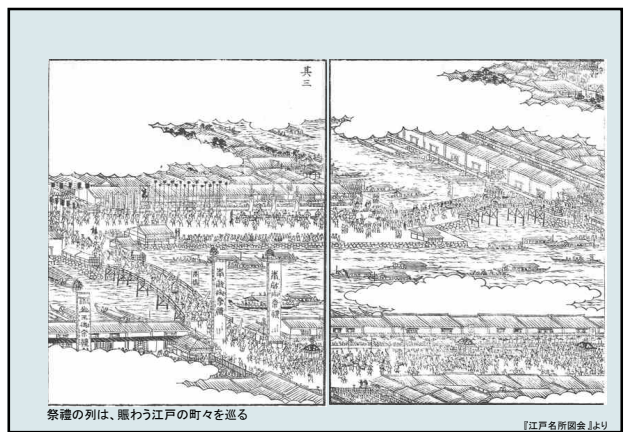
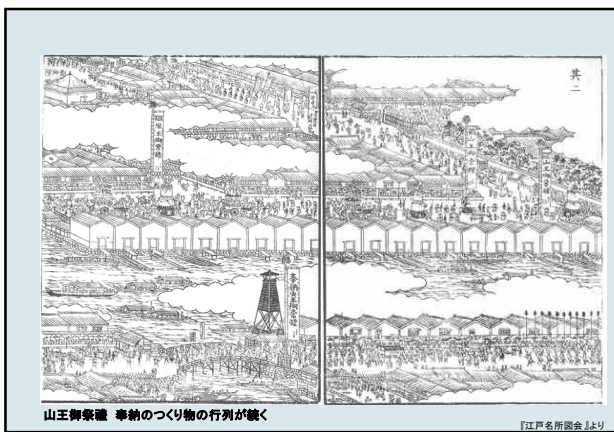
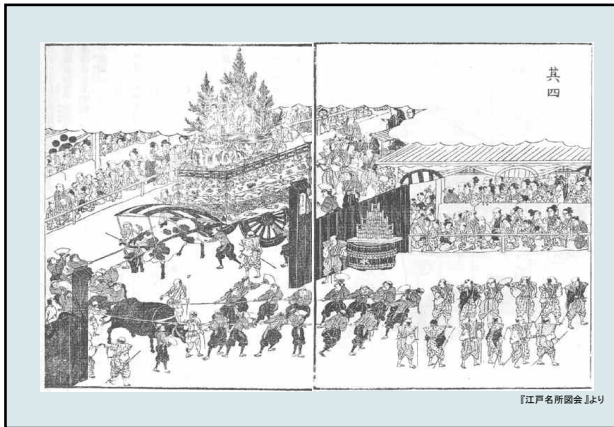
各所での、祭礼などの賑わい：神田明神

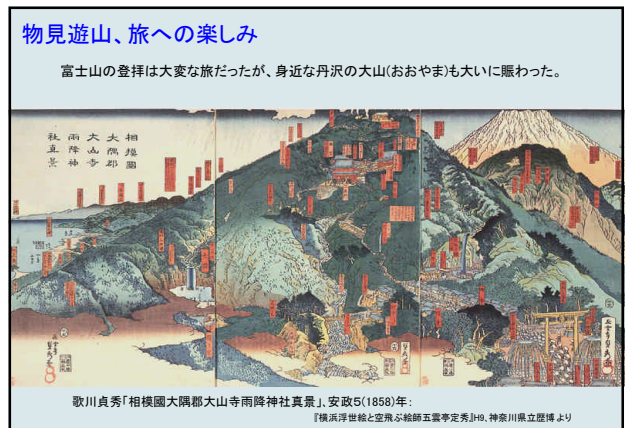
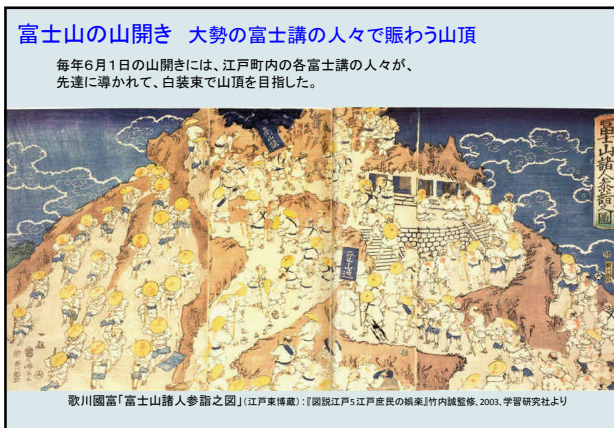
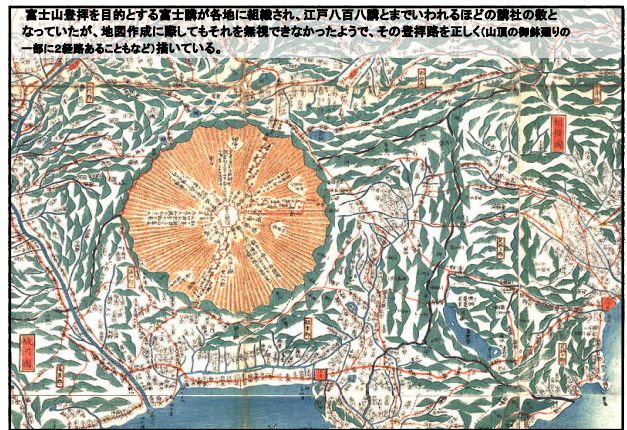
神田明神の社

『江戸名所図会』より

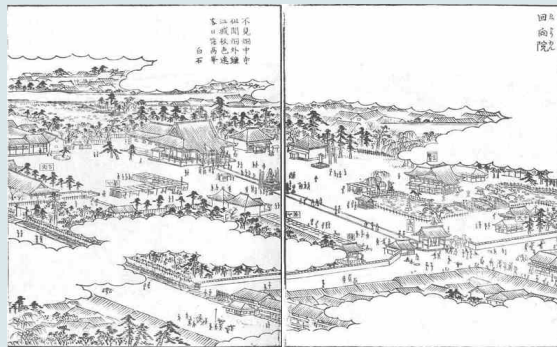
神田明神の祭禮「隔年九月十五日に執り行ふ。氏子の町々より練物・車楽等を出だす。中にも、大江山凱陣・・・などは、ことに遠近に聞こえてその名高く、もっとも美観たり。」

『江戸名所図会』より



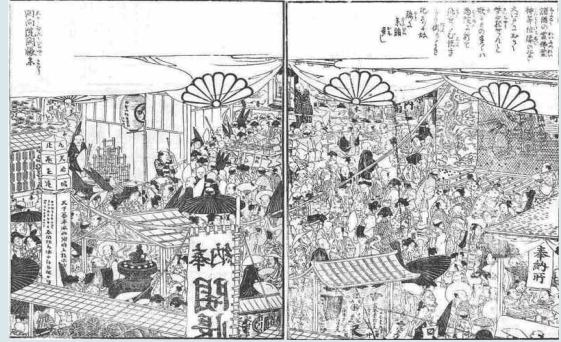


### 相撲などの興行や、出開帳



回向院 明暦大火の死者を弔うために建立されたが、境内では、相撲などの興行も行われた。

### 回向院では、時に、地方の名刹が出開帳



### 初期の相撲興行は野外で 雨天の日は順次順延



二代國貞「勘進大相撲取組之図」：『江戸時代図誌6 江戸3』S52、筑摩書房より

### 現代の切手のデザインにも



### 芝居の楽しみ

常設の、中村座の内部。芝居を見物しながら、会話を楽しみ酒を飲んだり弁当を食べたり、一日がかりの娯楽であった。



三世歌川豊國「踊形容江戸繪榮」安政5(1858)年、江戸東博蔵  
『図説江戸4 江戸庶民の衣食住』竹内誠監修、2003、学習研究社より

### 芝居小屋、楽屋の賑わい



二代國貞「市村座三階ノ図」：『江戸時代図誌6 江戸3』S52、筑摩書房より

### 郭の賑わい、新吉原への道

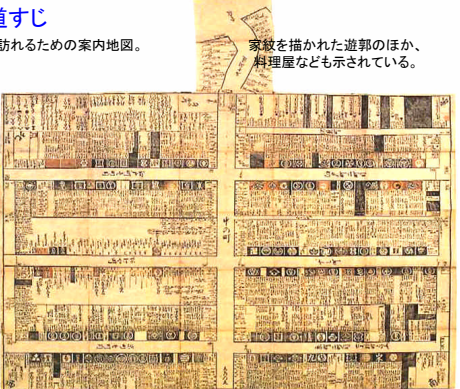
広重の錦絵  
『江戸名所百景』に描かれた  
「よし原日本堤」

先にご説明：  
大繁盛の遊郭を日本堤の先へ強制移転することで、堤防が吉原通いをする人の唯一の道となり、堤防の土地を固めることに役だったと言われている。  
対岸の墨田堤には桜が植えられ、花見時には大いに賑わったが、これも同様に、堤防の保全策と言われている。



### 吉原への道すじ

吉原の遊郭を訪れるための案内地図。  
家紋を描かれた遊郭のほか、料理屋なども示されている。



『図説江戸5江戸庶民の娯楽』竹内誠監修、2003、学習研究社より、「新吉原細見花車」(江戸東博蔵)

### 吉原の賑わい - 白無垢の衣装で路上に競う花魁(おいらん)

吉原には、しきたりが色々あったが、八朔(8月1日)には、白地の衣装を着る定めであった。



『図説江戸5江戸庶民の娯楽』竹内誠監修、2003、学習研究社より、歌川国貞「江戸新吉原八朔白無垢之図」江戸東博蔵

### 吉原の賑わい



『図説江戸5江戸庶民の娯楽』竹内誠監修、2003、学習研究社より、歌川国貞「江戸新吉原八朔白無垢之図」江戸東博蔵

### 吉原の賑わい - 宴席での、お座敷遊びの様子



『図説江戸5江戸庶民の娯楽』竹内誠監修、2003、学習研究社より、喜多川歌麿「座敷歌舞遊宴図」

今日のお話も、終わりが近くなりましたが、最後に、賑わいの「江戸」から「東京」へ **地図**に見る土地の変遷





### 江戸川河口域について 現代までの変遷を

**迅速測図**(関東平野全域(及び房総半島)を明治13~19年に測図)に見る河口域は、江戸時代そのもの。



ここに、後に、東京ディズニーランドが立地

東京ディズニーランドの立地は、江戸川河口域の東側にあり、江戸時代そのもの。迅速測図(明治13~19年)に見る河口域は、江戸時代そのもの。迅速測図(明治13~19年)に見る河口域は、江戸時代そのもの。



ここに、後に、東京ディズニーランドが立地

(5万分「東京東北部・東京東南部」(陸地測量部、明治42(1909)年測図))



(5万分「東京東北部・東京東南部」(地理院、平成17(2005)年修正))



お話しは以上ですが、最後に、  
若手の研究者としての将来像  
(大学卒業の頃に直面する問題点)

### 文部科学省の施策：25年度概算要求より

平成25年度 文部科学省概算要求 ~人材と科学技術のイノベーションによる日本再生~

- ① 多人数を擁する社会経済的イノベーションを進める人材の育成
  - 大学教員の高度な専門的知識を必要とする分野
  - 大学教員の高度な専門的知識を必要とする分野
  - 大学教員の高度な専門的知識を必要とする分野
- ② 安心して働き続けられることのできる「学びの場」の整備
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
- ③ 社会の産業のエンジンとなる大学の発展
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
- ④ 世界に牽引・追随に果たす役割を担う「グローバル」な人材の育成
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
- ⑤ 国家のイノベーションを促す、成長の原動力となるイノベーションの創出
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
- ⑥ 産官学の連携の促進
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
- ⑦ 科学技術を支えるシステムの構築
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善
  - 大学の教員待遇の改善

文部科学省

### 文部科学省の施策：若手研究者の育成・支援

特別研究員事業

【博士課程修了者(PD)、出産・育児による研究中断からの復帰(RPD)と優秀な博士課程学生(DC)に対する支援~】

我が国トップクラスの優れた若手研究者に対して、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図る。

【第4期科学技術基本計画】(H23.8.19 閣議決定)

① 国は、競争的に選考された優れた若手研究者が、自ら希望する場で自立して研究に専念できる環境を整えるため、フェロウシップや研究費等の支援を大幅に強化する。

② 国は、優秀な学生が安心して大学院を、目指すことができるよう、フェロウシップ、TA(ティーチングアシスタント)、RA(リサーチアシスタント)など総合的に充実した支援を図る。これらの取組によって、「博士課程(後期)在籍者の2割程度が生活費相当額程度を支給できることを目指す」という第4期基本計画における目標の早期達成に努める。

【第3次男女共同参画基本計画】(H22.12.17 閣議決定)

③ 出産・育児より研究活動を中断した優れた研究者が円滑に研究現場に復帰できるよう、研究奨励金の支給等の制度を拡充する。

特別研究員(PD)

- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間
- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間
- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間

特別研究員(RPD)

- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間
- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間
- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間

特別研究員(DC)

- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間
- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間
- 博士課程修了者等、月額:36.2万円(PD)、44.6万円(SPD)、採用期間:3年間

次代を担う優秀な若手研究者がアルバイト等をすることなく、主体的に研究に専念でき、研究者としての質的や量的能力も飛躍的に向上

